

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

福島民友の編集日記に「にぎやかな過疎」の言葉が紹介される。人口減による過疎が進んでいるものの、地元の人々と移住者の交流がさらに移住者を呼

び、多様な人材に富んだ活気にあふれ新しい動きがたくさんあり「がやがやとした雰囲気」が伝わってくるそんな地域を称するのだそうだ。話題を発信し続ける白馬地域も同じなのだろうと嬉しくなる。

2月に村外に住む知人が、八方尾根スキー場でコース外滑走する顧客とスキーパトロール員の「言い争う」報道が心配になったと話す。そしてスキー場以外の場所でのバックカントリーの話だ。知人は、「バックカントリーエリアでの世界大会開催の情報で白馬ではコース外での滑走が

可能になったと思っただけ」との発言に驚く。圧雪されていないままさまざまな斜面を滑走できる八方尾根ツリーランエリアは、安全を考慮した利用規定が定められ、エリア範囲も限られている。だが他の

コース外を滑走する多くの情報が発信されている事も事実だ。一部の顧客が滑走禁止区域に立ち入ってしまう原因が大会開催などの声も聞こえてくる。八方尾根自然環境保全協議会のゲレンデ

## これまで培ってきた観光資源を失わない戦略への知恵が問われている

を含む一帯での植生活動などの地道な活動で自然との共存を世界にアピールする八方尾根。だがコース外滑走の主な舞台は、八方尾根の治山を担う貴重な森林帯、植物を傷つけ雪崩も誘発し、死亡事

案も発生している。コース外の滑走シオンは国内外に映像発信され、同じ体験を目指して白馬を訪れる者と、滑走させない現場とで多くのトラブルが起きている。バックカントリー

は、真白な山中でターン・ジャンプを決めて雪煙をあげながら滑走する醍醐味や達成感ほ魅力だが、残念ながら白馬の雪質は、適しているとは言いがたい。事実予定されたフリーライドスキー・ス



世界的に評価される八方尾根の守るべきものとは、山からの声が聞こえてきそうだと、

外滑走は自己責任、勝手にどうぞの在り方が本当に良いのか考えさせられた事案でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)